

2050年

7がけ社会がやってくる!?

2050年の長野県は…

- 人口は2001年のピーク時から**約3割減少** (159万人)
- ただちに出生率が回復してもしばらく**人口減少は続く**
- 高齢化率は**4割超** など

現在は、**少子化の加速**に加え、**若者、特に女性の転出超過が深刻**

長野県が
100人の村とすると

2020

総人口は
78人の村となり

2050

65歳以上 ☹️	32人 (32%)	➡️	33人 (42%)
15～64歳 😊	56人 (56%)	➡️	38人 (49%)
0～14歳 😊	12人 (12%)	➡️	7人 (9%)

人口減少で
困ること

担い手不足

医療・福祉・交通
・物流サービス低下

地域のコミュニティ
弱体化

インフラや行政サービスの
維持

消費の減退
産業の競争力低下

社会保障
税負担が増加

空き家や空き地の増加
娯楽施設の撤退

ひとり一人にあった
学びの実現

誰もが社会で
活躍できるチャンス

人口減少下の
希望の種

新たな
ビジネスチャンス

行財政改革や
まちの再生

AI・ロボット技術等
の飛躍的な発展

約150回の意見交換を実施

県民をはじめ長野県に縁がある方々と、人口減少の現状を共有し、2050年のありたい姿を考えました。(約150回、3,000人が参加)

- HOPE2050若者との県民対話
一緒に創ろう信州の未来をー

知事と若者との県民対話を県内4か所で開催。
若者の視点で2050年のありたい姿を考えました。

「ありたい姿」

を実現するには
現状を続けていくだけ
ではダメ!

Re-**think**

“当たり前”を問い直す
考え方のパラダイムシフト
が必要

再配達って
当たり前?

地域の
お茶くみは
女性のしごと?

LET'S!

寛容な社会づくり

① 若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり

若者 ▶ 若者の可処分所得が**県民平均以上に向上**

性別 ▶ 家事・育児時間の男女格差 **2.0倍未満**

子育て ▶ 男性の育児休業取得率 **85%以上**

子ども ▶ 全天候型の子どもの遊び場が増える

多様性 ▶ 無償で日本語や日本文化を学ぶ場がある

学び ▶ 最先端のSTEAM教育※・英語教育

※STEM(科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics))を統合的に学習する教育に、芸術(Arts)の創造性教育を統合する教育手法

LET'S!

信州暮らし

② 信州の強みを活かした移住・関係人口の増加 ～暮らし、つながる仲間を増やそう～

▶ 年間移住者数 **10,000人以上**

▶ 移住希望地ランキングで**1位を獲得**

2050

ありたい姿

みんなて達成しよう!

2030

の旗

今の子どもたちが大人になる
2050年に向け、

2030年までに達成したい

当面の目標

(主なもの)

LET'S!

まち・むらづくり

③ 安心・便利で持続可能な生活圏の整備促進 ～県土のグランドデザインを策定・実現しよう～

▶ 安心・便利で持続可能な**県土のグランドデザイン**をつくる

▶ コンパクト・プラス・ネットワーク&レジリエンス※
によるまち・むらづくりについて議論し、具体的な事業に着手

※住居や商業施設、公共施設等が適切に配置され、
そこに交通ネットワークならびに情報ネットワークで利便性高く
アクセスでき、防災力にも優れた圏域を形成すること

LET'S!

経営等の革新

④ 変革期を乗り越える経営等の革新

労働生産性・グローバル

▶ 多くの事業所が**DX**や**リスキリング**を積極的に推進

▶ 訪日外国人旅行者の観光消費額 **1,000億円**

人材・省力化

▶ 女性の就業率を**70%以上**とし、高齢者の就業率**全国1位**を維持

▶ 法定雇用率適用事業所で雇用される障がい者数 **9,000人以上**

共創

▶ 圏域ごとに行政体制のあり方について議論され、
それを踏まえた取組が行われている

信州未来共創戦略

～みんなで作る2050年のNAGANO～

を進めるための

けんみん
県民



かいぎ
会議

参加者募集!!

がスタート!

長野県から
日本を変えよう!

学ぶ

人口減少の事実と課題

例えば…

- 有識者の話をきいてみよう
- 働き方改革の現場を覗いてみよう



Re-think

問い直す

例えば…

- どんな当たり前があって、どう変えたらいいか、ワークショップで考えてみよう

アクション 行動する

例えば…

- 自分ができていることを発表して実行しよう
- プロジェクトを作ってみんなで動かそう

広げる

なかまづくり

例えば…

- 身近な人に取組を伝えよう
- 一緒に取り組む仲間を探そう (コラボしよう)



シンカ

進化・深化

例えば…

- 取組事例をみんなで共有して、自らの取組をシンカしよう



上の活動は一例です。県民会議で考えよう!

※県民会議の名称: 「私のアクション! 未来のNAGANO創造県民会議」

Q どんな人が入れるの?

若者、子育て世代、高齢者、障がい者、企業、団体など、どなたでも参加可能です!

Q 参加費はかかるの?

参加費はかかりません!

Q 遠方だけど参加できるかなあ

大丈夫です!
オンラインでも参加可能です。

Q 子連れでも参加できる?

お子さん同伴でも参加できます!

Q こんな取組あったらいいな!

実現に向けて一緒に考えましょう!

Q メリットは?

スキルアップにつながるほか、一緒に取り組む仲間ができます。

Q 参加したい!

こちらの二次元バーコードから
申し込んでください。
(常時募集中)

